



頸部神経根超音波検査における

検者間差減少への取り組み

独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院

日野出勇次⁽¹⁾ 大隅理恵⁽¹⁾ 清家奈保子⁽¹⁾ 諏訪園秀吾⁽²⁾

(1)研究検査科 (2)脳・神経・筋疾患研究センター

利益相反の有無：無

※この演題に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

目的

頸部神経根は超音波での描出自体は困難ではないが、描出断面の選択や計測方法が検者によって差が出る傾向にあると言われる。

当院は3名の技師で検査を施行するため、トレーニングの一貫として計測法の院内標準化を行うとともに院内正常値の確立を試みた。

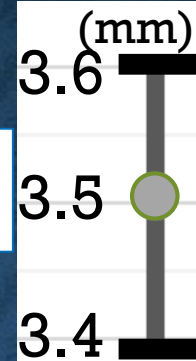
結果

ルート毎に見た技師間差は
明らかではなかった

$$F = 0.561$$

$$p = 0.5723$$

C7



C6



C5



技師X

技師Y

技師Z

結果のまとめ

- 技師間差は認められなかった。
- 左右による差は明らかではなかった。
- 正常ボランティアにおいては少なくとも左右による差は認められなかったため、症例においては左右差を有する場合に病的意義を有する可能性があると考えられた。
- C6においては年齢と共に径が大きくなる可能性がある。

結語

現在、神経超音波検査を施行できる技師は他の領域と比較すると多くない。

経験の浅い技師に対してトレーニングを行う際に計測方法を標準化することにより、検者間差の少ない信頼性の高い検査結果が臨床に提供できると考える。

今回の検討により、当院でのC5/C6/C7神経根の直径正常値はほぼ確立できたもの
と考える。

第7回神経筋超音波研究会

最優秀演題賞

沖縄病院 研究検査科

日野出 勇次 殿

第7回神経筋超音波研究会で
発表されたあなたの演題は、
「最優秀演題賞」に選ばれま
した。その栄誉をたたえこれ
を表彰します。研究の益々の
発展を祈念いたします

令和元年6月8日

神経筋超音波研究会

